

千人(あるいは数万人?)の規模でいることでしょう。仮にこのような利用が可能になれば、東大としても(あるいは出版社としても)元が取れるのではないのでしょうか?物性研にいたときに、雑誌全部がダウンロードされるという事件がしばしば起こりました。私の想像では、このような利用は、文献利用が困難な外部ユーザーがかかわっているのではないかと考えられます。逆に、もしも正規の利用ルートがあれば、このような事件は、自然になくなくなると思われるのですが。

最後ですが、物性研でいろいろな関係者と顔見知りになれたのは、私にとっての財産です。まだ10年以上研究生生活が残っていますので、いろいろなところで、皆さんと顔を合わせる場面があると思っています。上に書いたように、地方大学は予算としては極めて厳しい状況にありますので、共同利用研としての物性研には今後とも何かとお世話になることが多いと思いますので、よろしくをお願いします。

いろいろ駄文を並べました。物性研関係者およびこの駄文に最後までお付き合いいただいた読者に感謝するとともに、今後の物性研究所の発展、および皆様の健康と研究の進展を祈って、結語といたします。

兵庫県立大学物質理学研究科
田島裕之



研究室(兵庫県立大学物質理学研究科機能物質学I講座)集合写真 [2013/4/5 撮影、光都キャンパスにて]
(宴会の後なので見苦しく、申し訳ありません。最下列中央が筆者です。)

